

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2490300106		
法人名	学校法人鈴鹿文化学園		
事業所名	愛 すみよし苑		
所在地	鈴鹿市住吉1丁目23番8号		
自己評価作成日	平成30年8月4日	評価結果市町提出日	平成30年10月3日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kihon=true&JigvoNoCd=2490300106-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会		
所在地	津市桜橋2丁目131		
訪問調査日	平成 30年 9月 10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

公園・学校・幼稚園・商業施設・病院は利用者が歩いて行ける距離にある。住宅街で静かな環境に恵まれている。母体の医療福祉専門学校の介護福祉科の生徒の実習、地域の中学生・高校生の職場体験、小学校の町探検、各種ボランティアを受け入れて利用者と外部との交流が頻回にある。家庭的な雰囲気の中で馴染みの人間関係や環境を維持しながら、利用者の人権や尊厳を守り、利用者の心地よいと思える生活を営んで頂ける介護を目指していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開所9年目の事業所は、母体の福祉専門学校をバックに生徒達との交流が盛んである。又、地域の小学生・中学生・高校生の体験や実習の場としても受け入れており、利用者も楽しい時間となっている。訪問時の御礼の挨拶も利用者自身が担当するなど、積極的に取り組んでいる。管理者と職員は利用者と家族との連携を大切に、毎月担当職員より利用者の様子を詳細に手紙で知らせたり、面会時にはケア日誌をみせて日常生活を確認してもらっている。全利用者には必ず月1回以上の面会があるように、工夫して関係継続を大切にしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をホールに掲示し毎日朝礼時に出勤職員で唱和している。理念が実践につながるように会議等で話し合いをしている。	開所時に作成した基本理念を毎朝職員で唱和し確認している。また、毎月1日には運営方針7項目も唱和し、管理者は事例をもって理念の共有・実践について話し合うようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入会している。地域の行事に参加したり、買い物や喫茶店に外出している。地域の中・高校生の職場体験を受け入れている。	運営方針にもある「地域社会との交流」を大切にし、子供達やボランティアの受け入れ、地域の行事参加と積極的に交流している。隣人との関係も良く野菜をもらったり、メダカや盆栽見学等をさせてもらっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方の相談・見学を受け入れている。認知症カフェにも参加し、認知症についての講師もしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に行い、写真を交え、苑での取組や利用者の動向を伝え、その場で出た意見や提案について職員間で情報の共有を図っている。	年6回定期的に行い、状況報告や情報交換も出来ている。2地区の自治会長の参加で地域の情報が多く、運営に活かす事が出来ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	適宜、広域連合との連絡を行い指導を受けている。月に一回介護相談員に来院していただいている。運営推進会議には、元介護相談員に参加していただいている。	広域連合の職員とは相談や連絡をとり易く、また、包括支援センターからも利用者が出来る手作業を紹介してもらう等、協力関係が出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に研修を行い身体面だけではなく、精神的な拘束、言葉での拘束を行わないように努めている。	以前から「身体拘束委員会」を年2回は開催していたが、4回に増やし、「身体拘束をしないケア」について詳細に事業所内研修を実施している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	認知症の方の行動への理解を深める為に研修等を行っている。職員がストレスを溜めないように話を聞く場を設けている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常支援事業や成年後見制度についての必要性を感じ、研修会には参加している。現在利用者には制度利用者は見えないが、必要時協議していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に家族と面談し要望等を把握し、契約時に説明を行ない同意をして頂いて契約をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見は生活の中で聞き取りを行い、家族からは面会時に意見を聞いている。グループの玄関に意見箱を設置している。介護相談員を受け入れ利用者の意見等を聞いている。	家族には面会時にケア日誌を見てもらい意見を聴いたり、毎月担当職員が生活状況を手紙に書いて送ったり、利用料納入と共に面会をしてもらう等工夫をし、意見を聴く環境づくりをしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に2回自己評価を行い職員の意見や提案を聞く機会を設けている。毎月のミーティングで意見交換をしたり、常に話し合うようにしている。	年2回自己評価を行い、管理者は個人面談も実施している。毎月の会議には意見や提案も出し合い話し合っている。有給休暇や休憩時間などの確保についても話し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が資格を取得しやすいように配慮し、取得した時は給与に反映している。有給休暇が取得し易い人員体制である。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の研修や外部の研修も希望に応じて参加できるように各種案内を事務所に掲示したりして参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	三重県グループホーム協会・地域密着型サービス協議会に入会し、会議等に参加している。同業者との意見交換や施設見学に出かけている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人や家族にアセスメントを行ない、出来ること、出来ないことを明確にしフェイスシートやセンター方式に記入し支援に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望や不安に対して十分な時間をかけて対応するように努めている。不安に思われる要因を把握し安心できるような関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居される際に個々の意見や希望をお聞きしながら、対応出来ることと出来ないことを伝えて、他のサービスを含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の個々の状態を把握し能力に応じて役割を分担し支え合う環境を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時にケース記録を読んでもらいながら、日々の生活の様子を伝えている。毎月、身体面・精神面・社会面に分けてお手紙を送付している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や身内の方をお願いして、馴染みの場所や自宅に行っていただいて、入所前の生活に似たような生活を送れるように支援している。	入居の新しい利用者には友人の訪問がある。利用者や家族から馴染みの場所や人などを聴いて、要望があれば出掛ける等の支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	出来る限りホールで過ごしていただき、レクリエーション・体操などを一緒に出来るように支援している。利用者同士の相性を考慮して座席の位置を決めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設や病院に移られた方に対しても必要に応じて相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で個々のニーズを把握し、カンファレンス等で検討し改善に努めている。意思の確認が困難な場合は家族の要望も含めて検討している。	ケース記録は時系列に記入しているので、思いや意向を把握した時には記録して全員で共有し、実践につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活歴を家族や他事業所から情報提供してもらい職員間で共有できている。親戚・知人からも面会時に在宅時の生活の様子を聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中での言動や行動・様子を時系列でケース記録に記載している。毎日のバイタル測定・月一回の体重測定・月二回の往診にて、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族とモニタリング、定期的なカンファレンスを実施しケアの統一を図っている。医師・薬剤師・看護師にも相談にのっていただいている。	面会時にケース記録を家族に読んでもらい、要望を聴きケア確認書と月1回のケース会議でカンファレンスを行い計画書の作成をしている。モニタリングは3カ月毎に実施している。医師の意見もケア確認書の中に記録してある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日の様子や状況を時系列に記録している。朝礼の申し送りや職員間の情報共有をし、今後の介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望は可能な限り対応できるように検討している。病院での受診は対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	母体である専門学校の介護福祉科の生徒・いきいきボランティアが来苑している。本人の心身の状況に応じて買い物に出かけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者に体調の変化があった場合は、看護師やかかりつけ医に連絡している。皮膚科や整形外科の受診は職員が対応している。	入居時に説明して協力医に変更しており、月2回の往診がある。専門医や他科受診の場合にも職員が支援する時もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の認知症通所介護に週2回勤務しているので相談や報告をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療機関に対して家族の了解を得て生活状況を伝え情報交換を行っている。退院後の生活における注意点を聞き安全に施設生活を送れるような体制を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時面談において重度化した場合や終末期のあり方について話し合いをしている。サービス計画の説明時にも意向を聞いている。	入居時に「重度化について」の説明をし、事業所としては医療行為が必要になれば入院をしてもらう方針の説明もしている。医師・利用者・家族・職員との話し合いはその都度している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	実際に起こった事例をもとに、マニュアルを見直し作成をしている。応急時の手当てや緊急時の勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、2月・8月に職員の役割分担を行ない避難訓練を実施している。自治会や近隣住民にも協力をお願いしている。	総合訓練と部分訓練を年2回実施している。避難場所の確認や備蓄の用意、近隣の協力願い等も出来ている。夜間の想定訓練も課題を検討しながら実施している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	朝礼・ミーティング時に言葉使いや対応について丁寧な声掛けをするように意識づけをしている。排泄時や入浴時には特に利用者を傷つけないように心掛けている。	理念や運営方針にあるように、それぞれの利用者にあった言葉かけや支援の方法を大切にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の出来ない部分をカバーして、出来ることを引き出すようにしている。言葉で表現できない方は表情をよく見て支援をする様にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	強制・制止をせずに利用者個人の自己決定を尊重して個人の能力や希望に応じた支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問理容師のサービスを受けている。化粧をされる方は、化粧品を持ち込まれリップ・ファンデーション等を使われている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々に出来る作業を分担し、食器拭き・下膳等をしていただいている。食欲のない利用者には好物や形態を工夫している。	以前は職員といっしょに調理をしていたが、現在は出来上がった食事が届き温めて配膳している。時々は行事食として手づくりの食事やおやつを皆で楽しんで作っている。	職員不足から調理したものを業者より取り寄せているが、その日の献立を話題にしたり、メニューを書く当番を作ったりして楽しみなものになることを期待する。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は毎食記録している。毎朝牛乳を飲用してもらっている。個人に合わせて麦茶等で水分の確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施していただいている。夕食後は仕上げ磨きや義歯洗浄剤を使用している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録表を作成し、排泄パターンを把握し誘導が必要な方には声掛けを行っている。自立の方が多いためトイレの案内板が大きく表示してある。	自立の利用者が3名で、他の利用者はリハビリパンツの使用で誘導によりトイレでの排泄を支援している。声かけにも他の利用者には解らない様に気をつけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便に取り組み、バナナ・ヨーグルト・牛乳を摂取してもらっている。排便の確認を記録し、3日以上排便のない方の報告をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回以上は入浴していただいている。利用者の状態に合わせ機械浴で対応している。ゆず湯・菖蒲湯等入浴剤を楽しんでいただいている。	週に3回、午前に入浴支援をしている。2名の利用者は機械浴で支援しており、広い浴室でゆったりと入浴を楽しんでもらっている。現在は全員が楽しみな入浴となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	いつでも居室で休んでいただけるように空調管理を行っている。昼間の傾眠が目立ち夜間の睡眠に影響が出そうな場合はレクリエーションの参加を促し安眠出来るように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報は職員がいつでも見られるように管理している。確実な服薬の確認が行なえるように、チェック表に投薬者が押印している。随時症状の変化があった場合は主治医に相談して薬の変更等を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴を把握し得意な分野を活かして塗り絵・編物・ことわざ等に参加していただいている。床拭き・洗濯たたみ等個々の能力に応じて役割を活かせるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る限りご本人の希望に沿って買い物や喫茶店に出かけるようにしている。家族とも自由に外出していただいている。	日常的には玄関前で外気浴をしたり、近くを散歩している。買い物や花見、外食に行ったり等楽しみなお出かけもあり、家族が付き添ってくれることもある。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持することにより、物とられ妄想等の発展に繋がる事を回避する為、預り金を事務所で管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでも対応できるようになっているが、耳の遠い方が多い為、取りつぐことが多い。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールや廊下には季節に合った利用者の作品を掲示したり、行事等の微笑ましい写真もある。毎日の掃除で居心地の良い環境づくりに努めている。	居間兼食堂は天井が高く、天窓からの彩光で明るい。共同作品やカレンダーの写真で季節感を味わってもらう等工夫している。窓が少ないので戸外の景色が見れない為、外気浴をしたり、廊下での散歩をすすめている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールは利用者がお茶を飲みながらテレビ観たり新聞を読まれたり楽しめる環境である。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の活用方法は本人と家族に自由に使って頂けるように伝えている。自分で作った作品や家族の写真を貼り安心して過ごしやすい環境に努めている。	鏡がついた洗面台とクローゼット、エアコンが備品である。ベットや衣装ケース、テレビなどそれぞれ好みの物が置かれ、6畳ほどの広い居室である。どの部屋も明るくきれいに整理してある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が居室を認識しやすいように、表札を掲示している。トイレの案内表示や、各所には手すりが設置されており、安全な生活が出来るようになっている。		